

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

2020J3 ■順位表 ■第25節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	秋田	61p	+38	46	8	H●
2	熊本	46p	+13	42	29	HO AO
3	長野	45p	+18	38	20	H●
4	相模原	44p	+4	33	29	A● H△
5	岐阜	42p	+9	42	33	---
6	今治	39p	+6	24	18	H△ AO
7	鳥取	38p	+3	32	29	AO
8	富山	37p	+9	40	31	AO
9	鹿児島	37p	+3	34	31	AO H●
10	藤枝	33p	0	38	38	A●
11	岩手	30p	-15	24	39	H△ AO
12	福島	28p	-8	33	41	AO H●
13	G阪23	27p	-7	33	40	HO
14	沼津	26p	-7	24	31	A△ HO
15	八戸	23p	-13	31	44	AO
	讃岐	23p	-13	26	39	H△
17	YS横浜	22p	-20	29	49	HO A△
18	C阪23	19p	-20	24	44	A●

*勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

次回HomeGame

第28節 vs. セレッソ大阪U-23

11/18 (水) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

today's guest : **カタールレ富山**

2019 J3 16勝10分8敗 勝ち点58: 4位

直近の対決と結果

2020/09/22
J3 - 17節@富山
富山 1-2 岐阜
中島賢星, 川西翔太 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		カタールレ富山	
2020/11/04	J3 - 25節@ニッパツYS横浜 1-1 岐阜	2020/11/03	J3 - 25節@富山 富山 2-0 鹿児島
2020/10/31	J3 - 24節@長良川 岐阜 1-1 相模原	2020/10/31	J3 - 24節@長野U 長野 0-1 富山
2020/10/25	J3 - 23節@北上 岩手 0-4 岐阜	2020/10/24	J3 - 23節@富山 富山 3-0 YS横浜

●全34節を戦う2020年J3リーグも残り10試合となり、いよいよ終盤戦に入る。10/31(土)第24節は、ホームに相模原を迎えての一戦。試合の前半は拮抗した状態だったが、#24 栗飯原尚平の入れたボールがゴール前でのクロスプレーでそのままネットを揺らし、先制点。しかし、前半終了直前にPKを与えてしまい同点に。後半は相模原が優勢に試合を進めるが、#29 GKパク・ソンスのビッグセーブもありゴールを割らせない。結局1-1に終わり、4位と5位の対決は勝ち点1を分け合う結果となった。続く中3日での11/4(水)第25節・アウェイYS横浜戦は、序盤から岐阜が優位に立つが、フィニッシュの精度で苦しむと、相手の最初の攻撃チャンスで簡単に失点し、戦況を自ら悪化させてしまう。後半に攻勢を強めた岐阜は、#11 前田遼一の今季初ゴールで同点に追いつくも、その他の決定機を決めることができず、1-1で試合終了。J2昇格争いのためには絶対に勝たなくてはならない、17位チームとの試合で勝つことができなかった。

この2試合で勝ち点を2しか積み上げられなかったFC岐阜。幸いなことに、他の上位チームの多くが連勝できずにいるので順位は5位のままで、2位（現在は熊本）との勝ち点差は4に開いてしまった。シーズンは残り9試合、状況は少し厳しくなったが、まだJ2昇格の望みは充分に残っている。そして、9試合を6週間で戦う過密日程がやって来る。今節は11月1回目の3連戦・3戦目だが、このJ2昇格争いサバイバルレース・最終コーナーで調子を落としたチームは、次々と脱落してゆくことだろう。息が詰まるような激しく苦しいレースだが、僕らはもう、これ以上勝ち点を落とす訳にはいかない。目の前の1試合を最後まで集中して戦い抜いて、勝利を積み重ねて徐々に追い上げ、そして最後のフィニッシュラインでJ2復帰を掴み取ろう。

さて、今節の対戦相手はカタールレ富山。2014年にJ3降格が決定してから今季で6シーズン目、毎年のように上位争いには食い込みながらJ2昇格は果たせずにいるチームだ。安達亮監督体制3年目の今季も、シーズン序盤は上位争いを演じていたが中盤に4連敗するなど調子を落とし順位が後退。だが、ここに来て長野・鹿児島を破るなど無失点での3連勝。いまだ順位は8位だが、勝ち点37でJ2昇格争いに再び肉迫してきた、勢いのある対戦相手と見るべきだろう。また、岐阜が今節を中3日で迎えるのに対し、富山はホーム戦を経て中4日。コンディショニング的には岐阜の方が若干不利だが、この試合は、絶対に勝たなくてはならない大事な一戦だ。

富山で最も警戒すべき選手は、やはり#10 花井聖だろう。安達監督は対戦相手によって布陣を変える傾向があり、彼がスタメンなのかは不明だが、試合には出場するはずだ。司令塔でありつつ現在6ゴール、その正確な右足のキックによるセットプレーも驚異だ。また、7得点の#37 平松宗、6得点の#9 武颯といった大型・屈強なFWが富山の前線に揃っているのも要注意だ。富山との通算対戦成績は、岐阜の5勝4分5敗・18得点17失点。ちなみにカタールレ富山の前身、アローズ北陸とYKK APとの対戦（2007年JFL）では4分・3得点3失点と勝てなかったが、これは参考にならないだろう。参考にするべき直前の対戦、9/22(火)第17節・アウェイ戦は、仲田HC(当時)が初めて指揮を執った試合だ。前半に#10 花井のCKを#9 武に決められて先制を許すが、後半に#8 中島賢星のヘッドで追いつき、そして#10 川西翔太のミドルで逆転勝利を収めた。今節もまた、隣県クラブ対決『プライドオブ北アルプス』でもある大事な一戦を制して、J2昇格争いのサバイバルレースを生き延びなくてはならない。もちろん、富山は簡単に勝てる相手ではない。僕らも観戦ルールを遵守しつつ、勝利を目指して最後まで戦い、走り続ける選手たちの背中を後押しする熱い応援を最後まで続けよう。タオマフやゲーフラの掲出でスタジアムを緑に染め、(声は出さずに)拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。そして、試合終了後には観戦ルールと社会的距離を守りながら、勝利の喜びを選手たちと分かち合おう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第24節】岐阜 1-1 相模原

●試合終了の笛を聞いた時、僕は素直に『負けなくて良かった』と思ってしまった。もちろん勝ちたかったけれど、あまり勝利に拘りすぎると勝ち点1すらも失ってしまう、そんな試合内容だったと思う。それにしても、今回の相模原は完全に『#9ユーリ任せのポストプレー&カウンター』サッカーになってて。前回対戦の際は、もう少し三浦監督の好むパス主体のサッカーだったと思ったけれど、この試合の#9ユーリのフィジカルは尋常ではなく、そのデカさは“ラ式”フットボールのFWじゃないのかと(苦笑)。岐阜の選手は誰もフィジカルでは勝てないから、#9ユーリへの対応に追われてしまうと他の選手がフリーになって…と、ターゲットとしてボールを集める戦術が、シンプルだけど実に有効で。それでも岐阜の守備陣はよくボールを奪取していたが、悲しいぐらいにクリアボールが味方に渡らない。また、攻撃で敵陣のサイドを突破しても中央に人数がいなくてシュートが撃てない。まともにシュートが撃てたのは、先制点の時ぐらいなのでは？もっと逆サイドが中央に入ってくるかボランチが前線まで上がるかしないといけなけれど、たぶん守備バランスを意識して陣形を崩さないようにしているのかな…。だけど、今日のような試合では得点は奪えない。先制点は、#1ビクトルの目の前で#2橋本和と相手選手が潰れて気をとられた……正直ラッキーだった(苦笑)。そしてPK献上のシーンは、ちょっと誘われた感もあったけど、PA内でフリーにしているのだから仕方ない。後半終盤はかなり危険なシーンも何度かあって、そこはGK#29パク・ソンスのビッグセーブに助けられた。ヒーローインタビューも納得の活躍でした。

途中で#10川西翔太を下げたのは、中3日でのYS横浜戦を見据えてのことだろう。今日は勝ち点1で終わってしまったけれど、下位相手にはきっちり勝ち点3を獲る。そういった戦い方に期待したい。(ささたく)

●結果だけから言えば、とてつもなく痛い引き分けだった。昇格圏内の熊本との勝ち点差が4となって、一試合では逆転不可能な状況になってしまったのが非常に痛い。残り10試合。その中にはアウェイでの秋田戦、今節まで無敗の首位との試合もある。キツツイなあという思いでいっぱいだ。むろん、昇格争いの相手は熊本だけではない。ただ、この試合の内容から言えば、引き分けは妥当どころか、上出来と言わざるを得ない。シュート数がそれを物語っている。あいちゃんのゴールもシュートというよりは、グラウンダーのクロスがたまたま入ったようなもの。勝敗はシュート数では決まらないが、シュートが数多くあった方が得点のチャンスは増えるだろう。よく1点で済んだものだ。

そういう意味でも、この試合のMVPはソンス。終了間際の2本、ミドルとヘッドをよく止めてくれた。それから、相手の重戦車みたいなFWの突進をものともせず、素早い判断からセービングしたシーン。それがGKと言われるかもしれないが、溢れんばかりの闘志に、見ているこちらが震えるプレーだったよ。

とにかく、ここからは全部勝つ。厳しいけれど、目標達成のためには譲れない一線。現地に行けない自分分は、ただひたすら祈るのみ。もちろん、心の中に他力本願寺は建立済みだ。まずは、水曜日のニッパツ三ツ沢。選手も現地組も頑張ってください！(ぐん、)

●柔道のような「旗の上げ下げ」はサッカーにはないけれど、もしあったとするなら2-1で相模原の優勢勝ちだろうな、という試合。とにかく厄介だったのが相模原の巨漢FWユーリで、まずは体当たりで岐阜のDFを一人吹っ飛ばして、そこからドリブルを開始、これがまた速い。幸いにして「緩急をつける」「DFを引き付けて仲間を活かす」という術に長けてはいなかったので大きな傷にはならなかった。

後半、そのユーリがGKソンスに突っ込んでいて双方が倒れたシーン。主審はちゃんとファールでプレーを止め、ユーリに警告も出した。にもかかわらず、あのブーイング。それでも、クラブはハーフタイムなどにフォーマット化された注意アナウンスメントを流すだけ。もうさ、何も対処しないなら、クラブも「長良川のゴール裏は『声出し自粛』の対象外です」って認めようよ。あるいは「長良川のゴール裏がクラスターになっても当クラブは一切の責任を負いません」と宣言するとか。(吉田铸造)

【第25節】YS横浜 1-1 岐阜

●せっかく、前日に他の上位チームのほとんどが勝ち点を落としてくれたっていうのに、自分たちもお付き合いして勝利を放棄してしまうのは何故なんだ！？しかも、またしても下位チーム相手に取りこぼすとは！！っていう試合だった、簡単に言うと(憤怒)。試合は序盤から岐阜のペース。しかし相変わらず、クロスの精度が悪いのか中央での枚数が不足しているのか、それとも両方なのか、フィニッシュには持ち込めない。それでも、相手のボールを敵陣で何度も奪取できているから、そのうちカウンターで何とか…と思っていたら、YS横浜の最初の攻撃チャンスで簡単に失点。あの時は明らかに、岐阜の守備がゆるかった。しかも、相手の唯一と言っていい得点源#11宮本拓弥をPA内でフリーにしたら、そりゃ失点するよね…。その後は再び岐阜が攻勢に出るが、悲しいぐらいにボールが繋がらないし、前線で納まらない。パスやクロスの精度が悪いのならば、ドリブルや中央突破に戦術変更すべきだと僕は思うのだけど、ウチは精度の悪いサイド攻撃しかやっちゃダメっていう、自己ハンデ戦をやっているのかと思うレベルですよ…(溜息)。後半になって#8中島賢星をボランチに入れることで、前半よりは攻撃が活性化されたけれど、それでも決定的な場面でゴールを決めることができない。投入された#11前田遼一の今季初ゴール(おめでとう!)で勢いづいたのもわずかな時間帯で、逆にカウンターで大ピンチを迎える始末。結局、決勝点を挙げられず1-1。せっかく、他チームから順位を3位に上げる絶好のパスをもらったのに外したような、あまりに痛すぎる引き分けだ。僕は、選手たちが勝利のために必死に戦っているとは思えけれど、今日の試合を見る限り、チーム全体として見た際に、『勝利のために本当に真剣に戦っているのか』に疑問を呈せざるを得ない。下位チーム相手に、どこか緩んだ気持ちになっていないか。全員で声をかけあって気持ちを引き締め、そして何が何でもゴールを決めるんだという決意、すべてのプレーを集中して遂行するんだという意識が全員にあるのか。残された試合はわずかだが、そういったチームメンタルの弱さが気になってならない。(ささたく)

●いったい、どうしたらいいんだろう？感想を書こうとしても「おぞい」言葉しか浮かんでこないよ。これで、昇格云々とか、どの口が(苦笑)。

なので、カンタンに言うと、サッカーって、得点の少ない方が勝つんだっけ？という感じ。1-1というロースコアにもかかわらず、これほどの「バカ試合」が見られるなんてスゴイね！くらいかな？YS戦の前日に行われたJ3のダイジェストを見たけど、どの試合も手に汗握る、興奮度MAXな試合ばかりだった。それは5-0の試合も同様だった。翻って、ニッパツでの試合ときたら……。それでも、YSのサポさん達は満足しただろう。拍手と笑顔で選手を迎えることができただろう。自分たちのやろうとしているサッカーを貫き通した試合だもの。いや、長良川でのYS戦と全く同じ感想だよ、コレ。進歩がないのはボクも、かな？

ま、それでも、目標達成のチャンスが潰えたワケじゃない。決まるまでは足掻こう。足掻き抜いてもらいましょう。その先に何かが起こる……。かもしれない、ね？(ぐん、)

●ここに来て、昇格を争う上位陣の失速が目立つ。波動エンジンでぶっ飛ばす秋田以外は軒並み苦戦。追いつくチャンス！と思っただけれど、岐阜も「昇格を争う上位陣」の例に倣ってしまった。やっぱり『異端』を背負うには覚悟がいるもんな……というわけではなく、岐阜だって、ほぼ無抵抗だった昨年を除き(苦笑)、J2時代には同じように上位陣を苦しめていたんだっけ。残留争いをしてきたから？もちろん、それもあるだろう。でも、別の側面も絶対に無視できない。サッカーの目的は『勝つ』ことだからだ。「順位表の上位が下位に勝つのが正しい」という価値観に抗ってきたのがJ2時代の岐阜だった。そうだろう？いま、それを「昇格を争う上位陣」として、逆の立場で体感しているわけだ。諸事情あって試合を視ていないけれど、ぼくの周囲が揃って「負けなくてよかった……」という試合だった。それが、本当に『負けなくてよかった』試合になるかどうかは、これからの試合次第。(吉田铸造)